

平成26年度 事務事業マネジメントシート

事業名	心の相談事業			会計	款	項目	大	小
				01	03	01	02	01
05								
政策	O4	4節 誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	障害者支援課				
施策	4-4	健康で明るい暮らしづくり	主管課長	小西 和典				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内在住の精神疾患またはその疑いで悩んでいる本人及び家族	意図	精神疾患の早期発見や早期治療につなげ、これらの悩みや不安の解消もしくは軽減されるようにする。
事業内容	今でも精神科に通院するに当たって、抵抗を感じる者も多く、症状が精神疾患によるものか判断に困り悩みを抱える者もいる。そうした精神疾患の疑いのある者やその家族を対象に専門医による相談事業を実施し、市民の心身の健康づくりを支援する。			
事業開始から現在までの状況変化	平成14年4月に精神保健に係る事務事業が県から移管され、それまで保健所が行っていた業務を市で行うこととなり、障害者支援課内に相談室を設け専門医による相談を開始。広報、パンフレット等による啓発活動を行っている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
指標	① 相談者数	42	28	26	人	→→	
	②						
	③						
	④						
指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）						
事務事業のコスト	平成24年度	平成25年度	平成26年度	予約制で精神科医と市精神保健福祉士が相談に応じる。原則毎月2回、13時30分～16時30分で実施。 ・アルコール依存に関する相談 年4回 平成24年度は、県の補助金を利用しティッシュや無料の紙マスクに心の相談のPR広告を入れ周知に取り組んだことで相談者が増加した。ここ数年は、半年並で推移している。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	1,550,520	1,424,580	1,413,697				
事業費(b)(円)	545,600	446,400	446,400				
うち一般財源	545,600	446,400	446,400				
職員給与費(c)(円)	1,004,920	978,180	967,297				
人役・職員(人)	0.14	0.14	0.14				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H26)の改善計画	市民への心の相談事業の周知を図る。	③取り組みの課題	PRが不足すると市民への本事業の周知が低下する。
②今年度(H26)に実施した取り組み	窓口で「心の相談のしおり」を置きPRに努め利用の促進を図った。また、電話等でのメンタル相談については、心の相談利用につながるよう促すようにした。	④今後の改善計画	PRのため、広報、ホームページ、パンフレットを設置し、周知と利用の促進を図っていく。また、新たに開設された相談支援事業所と連携を図る。